



ながと型木育によるオリジナル教育プログラム

木育を教育へ

長門市が推進する「木育」を教育に活用し、長門市オリジナルの教育プログラムをつくりあげることを目的に、今年度、日置中学校1年生を対象にした「ながと型木育によるオリジナル教育プログラム」がスタートしました。

10月3日(木)から12月16日(月)まで全9日間実施された教育プログラムを振り返ります。

森林づくりを学ぶ キャリア教育

この教育プログラムは、森林資源を利用する林業・木材産業について、川上から川下まで一連の流れの中で「感じる」↓「知る」↓「つくる」を体験し、森林づくりの必要性が理解できる内容となっており、長門市とNPO法人人と木、長門Nセンターが連携して実施しました。

10月3日(木)にキックオフミーティングが開かれ、木のおもちゃを制作して日置保育園児に届けることを目標に、森林に入る準備を話し合うことからプログラムがスタートしました。

感じる〜森林を五感で感じる〜

10月7日(月)、生徒らはへき千年の森へ。山口県西部森林組合職員らの案内で、森の中にあるクヌギやシイノキ、スギ、ヒノキなど木の特徴の説明を受けながら、実際に幹に触ったり葉の匂いを嗅いだりして、森を五感で感じました。また、実際に木を伐り出す作業を見学し、林業の現場を肌で感じました。

知る〜木材の加工場を見学〜

10月15日(火)、生徒らは市内の製材加工場へ。長門市の森の特徴やシイノキの活用方法など森の価値の説明を受けた後、製材加工場を見学しました。

木が伐採され、森から運ばれた後どのように商品として加工されるかを、実際の施設や工程を自分の目で見て、学びました。

つくる〜木のおもちゃ制作〜

11月5日(火)から4回に分けて、ものづくりの授業がスタート。NPO法人「人と木」の川浪理事の指導のもと、日置保育園児が遊ぶ木の積み木おもちゃの制作に取りかかりました。

生徒らは積み木の図案づくりから始め、おもちゃの楽しみ方など必要な事柄を絞り込み、アイデアに活用。その後、アイデアスケッチをもとに「魚」と「木」をテーマにした積み木づくりに取り組み、糸鋸で型を切断した後、保育園児がけがをしないようにしつかりと紙ヤスリで研磨しました。

届ける〜保育園児と遊ぶ〜

12月16日(月)、完成した積み木おもちゃを持って日置保育園へ。生徒は園児に木の種類や木がさまざまな製品に加工される流れなど、プログラムを通じて学んだことを伝え、木の積み木おもちゃを手渡しました。

生徒たちは全9日間の教育プログラムを振り返り、「今まで知らなかった日置の魅力を改めて知った」「プログラムを通じて人前で発表することが恥ずかしくなくなった」「みんなでの目標に向かっていくことの楽しさややりがいを感じた」な



▲へき千年の森で森林の様子を学ぶ



▲葉の匂いを嗅ぐなど、五感をフル活用



▲切り株を触って、感触を確かめる



▲園児がけがをしないよう、積み木を紙ヤスリで磨く



▲授業を通じて何を学んだか、振り返りを行う

どの感想を話しました。また、学校側も「さまざまな体験学習を通じて生徒の心が豊かになり、感性が高まった。ふるさとへの思いを一層深めることもでき、教室の中ではできない貴重な学びであったと思う」と授業の総括を行いました。

長門市オリジナルの教育プログラムへ

長門市では木育推進基本計画において、「木育を核とした子育て世代に選ばれるまちづくり」を目指しています。0歳から18歳まで子どもが成長する間の各ステージで、市の自然を活かした魅力のある木育教育プログラムにより、多くの学びを体験できる体制をつくります。

木育教育プログラムは、子どもたちが主体的に学び、行動できる能力を育みます。この取組を長門市オリジナルの教育プログラムとして広げていくことで、子育て世代に選ばれるまちにつなげていきます。

木育教育プログラム・ものづくり体験講習会作品展示

■期間 1/6月〜1/31(金)

■場所 市役所1階市民ロビー

■内容 木育教育プログラムで生徒が制作した木のおもちゃおよび「ものづくり体験講習会」で制作された作品を展示



▲糸ノコで型通りに切り抜く



▲木材加工の現場を見学



▲生徒が制作した魚と木をテーマにした積み木おもちゃ